

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170400182		
法人名	社会福祉法人 境港福祉会		
事業所名	グループホーム夕日ヶ丘(さくら棟)		
所在地	鳥取県境港市夕日ヶ丘二丁目100番地		
自己評価作成日	令和元年 7月 17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/31/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.022.kani=true&Ji.gyosyoCd=3170400182-00&Serv.iceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和元年 8月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅街に開設して15年になります。広い敷地と、窓が大きく明るい所が自慢です。入居の皆様には、『ここが何よりも安心できる場所であること』を今も変わらず心がけています。まずは、「ここもそんなに悪くないぞ」と思ってもらえるように、私たちが、入居の皆さまに歩み寄るように努めています。周りの住宅が増え、子供の数も増え、大型店が建ち、随分にぎやかになり、私たちが地域に出掛けて行くことが増えてきました地域社会の一員だと、入居の皆様にも少しでも感じてもらえるようになったと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅分譲地の中にホームがありますが15年目を迎えました。ホーム周辺にも新しい住宅が多くなっています。地域の子ども会との交流事業や地域の方の参加して頂く文化祭など、地域との交流も恒例行事となり、利用者も地域の方々との交流を楽しまれています。
中学生の職場体験やボランティアの方には認知症を知ってもらうことができます。
利用者はコンビニや近隣のスーパーに買い物に出かけられます。
地容赦に対しての対応方法については、職員全体で対応を考え支援されており、利用者にあった支援を行い、楽しく生活を送って頂けるよう心掛けておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念等は掲示してある。理念に基づいて、ケアをしているが、利用者様の状況により、職員全員がしっかりと意識した対応が出来ない事もある。	玄関やスタッフルームに理念等掲示されており、理念に基づいてケアが行われています。改善目標があり職員は共有し実践され年度末に評価を行なわれています。理念について対応等話し合いの機会を持たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2回、子ども会と合同行事を催し、文化祭として地域の方を招いて、地域とのつながりを持っている。最近は地域の方たちに避難訓練の参加、協力を得ることが難しくなっており、緊急時に対応して頂けるか不安がある。	恒例となっている地域子ども会との夏祭り、クリスマス会を合同で行われ楽しまれています。また、地域の方をお招きしてホーム文化祭に於いても、地域との交流を大事にされています。年始の子どもみこしや獅子舞いが来られ利用者は喜ばれておられます。中学生の職場体験や高校生の夏休みボランティア、踊りのボランティアなど交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや、職場体験、実習に来られた方々には、認知症の方への偏見をなくし、理解頂けるようにお話し、支援の方法など説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、施設職員、ご家族、地域、民生委員、市役所の各代表を招いて開催。近況の報告、相談、意見交換をし改善要望があれば実践に向けて話し合いをしている。行事や講習会の案内も頂き、出掛けている。	2ヶ月に1回夕日ヶ丘・二番館合同で入所者家族、市役所、地域代表、地域包括等に参加頂き運営推進会議は開催されています。入所者状況、行事、研修報告、拘束に関する報告等意見交換を行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に、報告、相談を行い、施設長や常務理事等は何かあれば、電話、又は市役所に出向いて、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長や常任理事も、市と連携を取りながら協力体制を築かれています。市役所からは行事や講習会の案内も頂かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年度の介護保険改定により、施設内研修や運営推進会議を用いて、どこからが身体拘束になるのか、現状の物が、そうでないのか、相談や検証を行う機会を設け、身体拘束になりそうなものも減らせられるようにしている。ベッド柵は掴まりやすく、起きやすくする為、家族、本人の同意を得てしようしている。離苑は減ったが、対応が難しい利用者様がおられ、玄関や出入り口は施錠は続けている。	身体拘束廃止適正化委員会は2ヶ月に1回の運営推進会議で話し合われています。身体拘束をしないケアについての施設内研修を実施され、相談や検証が行われ身体拘束とならないよう取り組まれています。身体拘束の実施する場合には、手順に則り、家族に同意を得て記録を取りながら評価し必要最小限になるよう心掛けておられます。離設があり対応が難しい方がおられ安全のため玄関や出入り口を施錠されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で勉強会を行っている。職員ひとりひとりが常に意識し、お互いに注意を払い防止に努めている。職員のストレス軽減についても、そう思われる事案は、ケア検討会を行って、対応を行える様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はおられないこともあり、施設内研修での議題にないため、法人に働きかけ、専門家を招いて、取り組めるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用開始契約時に、重要事項説明書をもって契約内容の説明を行い理解と同意を得ている。質問や不安内容には納得していただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情受付連絡先も表示してある。家族面会時には直接お聞きし、要望や意見は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいる。	玄関に意見箱も設置されています。また、苦情受付連絡先も掲示されています。家族の方には面会時に管理者、職員に直接希望、意見等を聞くようにされています。頂いた意見、希望等は職員会議等で検討され改善に取り組まれています。遠方等で中々お会いできない家族には月の便りと利用者の様子を請求時に郵送して電話等で意見・要望等を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が、なるべく発言し易い場となるようにしている。行事ごとの提案や結果について複数回の職員アンケートを実施している。ケアに関する気付きや提案は、朝の申し送りの後に3日連続で検討会を行ってなるべく多くの職員の意見を聞いている。	管理者は職員会議で発言しやすいよう職員に声掛けされています。行事の提案、結果について職員アンケートを実施されより良い行事となるよう努めておられます。ケアの気付きや提案について朝の申し送り後に3日連続で検討会を行われ職員の意見を聞く機会を設けられ全体で取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善給付金、各資格手当、時間外の会議出席手当など設けられ、やりがいや、向上心が持てるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議を利用し、法人内研修を行っている。法人外研修は経験、力量に見合った職員に参加をすすめ、必要であれば勤務表に組み込んでいる。その他研修案内は掲示板に張り出し自主参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回の相互研修で職員は他グループホームで研修し意見交換をしている。グループホーム協会の研修勉強会に参加して交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人の思いを十分にお聴きし、入居後はまず安心して生活していただくことに重点をおいて関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、契約時には家族の不安や要望を十分にお聴きし、入居後は様子の報告や相談を行い安心して頂けるよう支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャー、家族、本人との面談や話し合いの中から今必要な支援を見極めホームに入居されるが、その後の状況によって他のサービス利用に至るときもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」ことを意識し、日常の家事を一緒に行い、本人の状態に合わせて出来る事をしてもらっている。伝統行事や料理を教えて貰ったり生活の智恵をお借りしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌で近況をお伝えし、なにかあれば、ご家族に報告、相談を行っている。頻繁に会いに来られたり、休日にはドライブや、外食に出かけられる家族の方もおられ、職員、家族とともに、本人様との関係が保たれるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、ご友人も気軽に訪ねてきて下さる。職員と墓参りや馴染みの神社にお参りをしたり、奥様が入所されている施設に面会に行ったりしている。	家族、親戚、友人等気軽に面会をされ馴染みの関係の継続が行われています。職員と墓参りや馴染みの神社の参拝、奥様の入所施設への面会、ホーム近隣のスーパーに職員と買い物やドライブ等馴染みの人や場所の関係継続に努めておられます。	馴染みの人や場と関わった場合には利用者に色々お話を聞き、昔話などをして頂き、回想法に繋がっていかれていけると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格と、利用者同士の関係を把握しトラブルや、孤立のないように配慮している。少人数で散歩やドライブに出掛けたり、孤立しがちな方は意識して隣に座って、コミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の経過を確認し、必要があれば相談に応じている。混乱のないよう配慮しながら職員が訪ねる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方の希望や意向は、日々の何気ない会話の中から見えてくることがあるので聞く耳を持ち、実現に向けて取り組んでいる。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向把握のため日々の会話から聞く耳をもち意向、把握に繋がるよう実現に向けて取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、情報を職員全員が目を通し、把握出来る様、個人カルテにファイルしてある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態や過ごし方を観察し、現状把握を行い毎日のカルテに記録している。報・連・相を怠らずに情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員は毎月のモニタリングを行い、見直し時期にアセスメントをして課題分析をし、全職員が閲覧して意見を書き込み、本人・ご家族の意向も聞きそれを基に原案を作成し、担当者会議を行い、ケアプランを作成している。	担当職員が月1回モニタリング、評価6ヶ月に1回実施されています。見直し時のアセスメントより課題分析を行い全職員が閲覧後意見を取り入れ本人、家族の意向を基に原案を作成され担当者会議を開催しケアプランを作成されています。急変時には随時変更が行われます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、職員の対応、結果、気付きなど個人カルテに記録をし、モニタリングに反映出来るようにしている。特記などは業務日誌にも記録して業務前には必ず目を通して情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズには柔軟に対応出来る様取り組んでいるが、勤務体制、職員の数なども限られており十分で、柔軟な支援とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ近くに、丘があり川があるので、散歩に出て、足腰を鍛えたり、季節感を味わって頂いている。歩いて行ける近くの店に買い物に行ったり、近くの美容院を利用したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の希望でかかりつけ医に受診される方と、ホームの協力医院による2週に1度の往診を受けられる方がおられる。半年に1度は検診を受けて頂いている。いずれも何かあれば相談できる関係である。	本人、家族の希望でホーム協力医を希望される方大半で、2週間に1回往診を受けられます。従来のかかりつけ医を継続されている方もあり、家族による受診同行や往診を受けられています。整形外科、眼科、皮膚科は家族が同行受診をお願いしております。健康診断も6ヶ月1回受けておられます。協力医、かかりつけ医とも変化等あれば相談できます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態の変化があった時は、速やかにホームの看護師に報告、相談を行い指示を仰いでいる。必要であればすぐに受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関との情報交換を行い環境が大きく変わらないような対応に努めている。普段から相談できる関係作りをしていて、ホームでの生活が可能になれば、退院して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りに関する指針はあり、本人、ご家族の意向をお聞きしている。近隣の病院から、重度及び緊急時における、対応の明確化の要望があり、直近の管理者会議では、より分かりやすくするよう、検討中である。但し現時点で一部の往診医は24時間対応の医療機関がない為、看取りはすぐに対応できない。早急に整備を進めていかなければと思う。ホーム看護師が点滴をするなど出来る限りで重度の方を現在も看させてもらっている。	重度化と看取りに関する指針があり本人、家族の意向を聞かれています。管理者会議で近隣の病院から重度化及び緊急時に於ける対応の明確化の要望があり検討中です。境港市内で24時間対応の医療機関が少ないため、看取りはすぐに対応ができない状況です。かかりつけ医指示の下ホーム看護師が点滴をするなど重度の方の対応をされています。	市役所担当者にも相談し、24時間対応して頂ける医療機関の確保を進めて行けると良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているので消防署から来ていただき緊急時の対応についての勉強会を行っていたが、最近ではできていない。緊急時のマニュアルは作成しているが、適宜見直ししながら確認を行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災想定避難訓練を行っている。地域の方にも案内をしているが参加が難しくなっている。災害時には地域住民の協力体制が出来ている。津波(水害)想定訓練も行っている。	年2回火災・夜間想定避難訓練をホーム合同で行われています。津波(水害)想定訓練も行われています。地域の方に案内をされていますが多くの参加が難しくなっています。災害時には地域住民の協力体制はできています。防災訓練計画を作成されています。備蓄も用意されています。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない丁寧な声掛けや対応を心がけている。入浴時は同性介護や、1対1でないとなかなか嫌な方がおられるので好まれる対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない丁寧な声掛けや対応を心掛けながらケアが行われています。排泄時の声掛けは耳元で話しかけられプライバシーを損ねない対応が行われています。浴室の入り口には暖簾をかけたドアを開けても直接浴室が見えないよう配慮をされています。部屋の入り口にはそれぞれ思い思いの暖簾を掛けられプライバシーの確保をされています。	定期的に接遇研修に参加、開催されても良いと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話や作業の中で本人の思いや希望をお聴きし、服や飲み物を選ぶなど、小さなことでも自己決定できる場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく御本人のペースや希望に沿った生活が出来るように支援しているが、食事や入浴時間などはこちらの都合が優先する場合もある。時間帯は施設で決めだが、ゆっくりと入浴が出来るよう、午前中にゆう		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で洋服を選んで着ておられ、季節とそぐわなかったり乱れているところは自尊心を傷つけないよう直させてもらっている。日常、外出時など化粧の支援もしており、出掛ける時はおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食事、後片付けは毎日一緒に行っている。日常の会話などから食事の好みは把握出来ているので、出来るだけ柔軟な対応をし、誕生日はその方の好みの献立にしている。	盛り付け、食事の後片付けのできる方は職員と一緒にやっておられます。職員は日常の会話などやアセスメントから食事の好みを把握されています。誕生日は利用者の好みの献立にされています。おやつ作りは不定期で行われています。毎週1回のカレー作りは利用者、職員で作られ楽しみとなっています。外食は担当職員が利用者と1体1で近所の飲食店等に出掛けておられます。家族と受診時の外出の時外食をされる方もおられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や状態、個人の能力によって食事の量や形態を考え、医師の指導があればそのように個別に対応している。チェック表で食事、水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの支援を行っている。自分の歯、義歯の方に応じた口腔ケアを行い毎晩、義歯の方は洗浄剤に付け置きをしているが、毎食後、全員のチェックは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、習慣の把握に努めている。個別の声掛けや誘導を行うことで、失禁が減った方があり、今後もトイレでの排泄を目指し、個別のケアをしていきたい。	排泄チェック表で排泄パターン、習慣を把握しトイレの排泄支援が行われています。ポータブルトイレは夜間ふらつきのある方が使用されます。個別の声掛けや誘導で失禁が軽減の方があり個別でトイレの排泄ケアを継続されています。夜のみオムツ対応の方には定期的におむつ交換が行われ清潔を保たれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳と、朝食時のヨーグルトが乳酸菌飲料、10時にココアを摂ってもらっている。毎日リハビリ体操を取り入れ、散歩や棟内の歩行してもらっている。頑固な便秘の方はその方に応じて頓用の下剤を服用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は週3日、時間は午前、午後に関係なく、その方が入りやすい時に入ってもらっている。仲の良い方と一緒に入られたり、一人で入られたり、その中で希望に沿える様にしている。	週3回午前、午後の入浴支援が行われています。入浴は同性介助が行われています。また、希望の時間の入浴にも対応されています。1対1を希望される方は好まれる対応で希望に沿って入浴されません。入浴拒否の傾向がある方は清潔保持の為声掛けや誘い方の工夫を行い入浴して頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や状態に応じて休息をとってもらっている。居室の環境を整え安眠していただけるよう支援している。日中は活動に参加してもらえるよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は1冊のファイルにまとめてあり変更があれば看護師によって常に最新の情報が綴られている。病状と共に職員は薬の情報を把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事は、だいたい能力に応じて分担している。手芸の好きな方には材料の準備をし、歌のお好きな方には、カラオケでうたってもらい、ドライブに出て気分転換してもらったりしている。ゴルフを広場で出来ればと考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や遠足、外食などは予定を立てて出掛けている。その日の希望で出掛けることもあるが、職員の都合で出掛けられないこともあるので今以上に柔軟な対応が出来ればと思う。ご家族の許可を得てお墓参りや他施設入所中の奥様に会いに行った。	花見や遠足、外食等は予定を立て外出されます。ホーム近くのスーパーへ日用品の買い物などその日の希望で外出もあります。家族の許可を得て墓参りや他施設入所中の奥様に面会も行われています。家族と外出される方もおられます。天候の良い時はホーム駐車場に縁台を置き日向ぼっこをされ楽しめる事もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前より、職員の把握出来ないところでお金のやり取りがありトラブルなことから基本的にはこちらで渡して払ってもらおうようにしている。小銭を持っておられる方はおられ、おやつを買われる事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人からの希望された時は支援し、毎日電話を掛けて下さるご家族がある。年賀状、暑中見舞いをご家族の協力で自分で書いておられる方がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感や混乱をまねかめよう音、光、温度などを入居者主体に考えて環境を整えている。屋内、外に植物を置いて季節を感じて貰えるよう配慮している。	テーブルの花は職員が持参したり購入などされ季節を感じられるよう工夫されています。音や光、温度管理等利用者本位で環境を整えられています。屋内、外に植物を置き季節を感じられる工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの配置は利用者様通しの関係性を考慮したものとしている。廊下の途中に談話室やベンチが設けてあり、仲の良い方同士座って談笑されたり、ひとりでテレビを見たり思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族にお願いをして馴染みの家具使い慣れた道具を持ってきていただくようにしている。	馴染みの家具や使い慣れた道具、テレビ、本人の写真等を持参されています。家族や本人、職員と話し合い過ごしやすい工夫をされています。ベッドの手すりは立ち上がりなど安全にできるよう使用されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のペースで自立した生活をして頂くため、居室に表札、のれんを設置し、トイレには張り紙をしたり、室内物干しや個人の洗濯カゴを用いるなど工夫をしている。		